桃李（とうり）の里

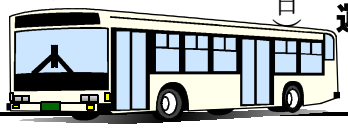
明日は「土曜授業」！
明後日は「中野地区大運動会」！！
日程をご確認ください

明日10月10日（土）は土曜授業です。運動会の前日にこの日に実施することにしました。授業は3校時までで、下校時刻は11時25分の予定です。なお、バスは通常通り運行させるそうです。

その日は第45回中野地区大運動会（バスの運行はありません）。なお、給食はありません。

明後日10月11日（日）では、送迎をお願いします。一緒に来られるかたは、お願いします。

雨天の場合は12日（月・体育の日）に順延になります。メールでもお知らせする予定です。



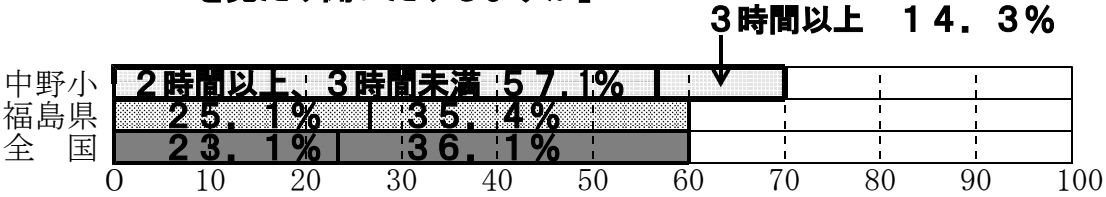
花火の場合は午前6時に実施が上がります。なお、以前にお伝えしておりますようにお以前にお伝えしておりますように、**13日（火）は普通の授業日**です（5・6年生が市の行事「劇団四季・こころの劇場」に参加するため）。**繰替休業日は14日（水）**ですので、お間違えのないようお願いいたします。飛び石の日程になり、申し訳ありません。

学校だより

福島市立中野小学校
発行：校長　益子　朗

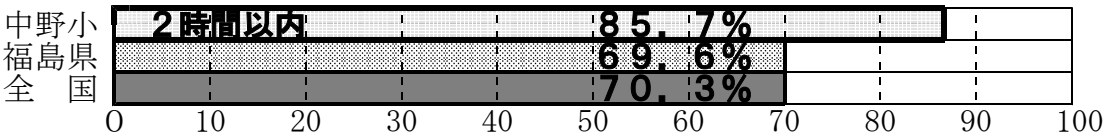
学力学習状況調査「児童質問紙」より（２）

Ｑ１０「普段（月～金）、１日当たりどれくらいの時間テレビやビデオ、ＤＶＤを見たり聞いたりしますか」



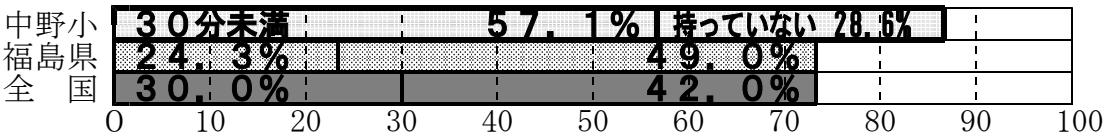
全国や県にはテレビなど３時間以上観るという児童の割合もそれぞれ３０％以上いますが、本校では３時間以上は１名です。２～３時間の児童が県や全国平均の２倍程度なのに対して、３時間を超える長時間利用者は少ないですが、それでもまだテレビなどの時間は多目です。健全な生活習慣を身に付け、家庭学習の時間を確保するためにも、改善しなければならない課題です。

Ｑ１１「普段（月～金）、１日当たりどれくらいの時間、ゲーム（テレビ、コンピューター、携帯、スマホを含む）をしますか」



本校ではゲームの時間を２時間以内に収めている児童が大半です。全国や県には３時間以上と答えた児童がそれぞれ２０％近くいますが、本校には皆無です。しかし、前問のテレビの時間とゲームの時間を合わせると、３～５時間ということになり、さらに改善していく必要があるでしょう。

Ｑ１２「普段（月～金）、１日当たりどれくらいの携帯電話やスマホで電話やメール、インターネットをしますか」



本校では３０分未満しか携帯やスマホで通話・メール・ネットをしていない児童が全国や県の２倍程度であり、いわゆる「ネット依存」にはなっていないようである。

しかし一方で、携帯電話やスマートフォンを持っていない児童は、全国や県では半数近くいるのに本校では３割程度。逆に７割の児童は持っているということになります。こぶしっ子たちの正直さを考えれば全国や県の答えの信憑性には疑問が残りますが、いずれにせよ昨今の携帯・スマホが絡んだ凶悪犯罪の多さをみれば、不必要に子どもたちに持たせたり使わせたりすることは絶対に避けるべきでしょう。

校長のつぶやき

最近は歳のせいか、最近ニュースやスポーツを見ていて、ちょっとしたことで感動することがしばしばあります。

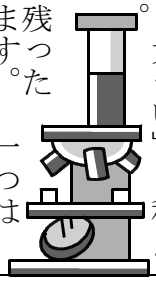
先日、ノーベル賞（医学生理学賞）を受賞された大村智教授の言葉に目を奪われました。

「山中先生の研究が注目されるようになったのは、ここ3年前からだ。うつ病の治療法の特効薬が開発されるまでは、微生物研究の熱帯のご専門の方々が、寄生虫の感染症を起こす微生物から、薬を探すのが大変だった。その中から、ある物質が、その後、胸を打たれる大村先生の研究の結果、アフリカの貧しい人々の救世主となった。」

最近、ニュースを見ていて、ちょっとしたことで感動することがしばしばあります。

先日、ノーベル賞（医学生理学賞）を受賞された大村智教授の言葉に目を奪われました。

「山中先生の研究が注目されるようになったのは、ここ3年前からだ。うつ病の治療法の特効薬が開発されるまでは、微生物研究の熱帯のご専門の方々が、寄生虫の感染症を起こす微生物から、薬を探すのが大変だった。その中から、ある物質が、その後、胸を打たれる大村先生の研究の結果、アフリカの貧しい人々の救世主となった。」



一つは、「私は賞を取ろうと思って研究したことはまったくない。世のため人のために役に立つ研究をするために、必死になってやってきた」の言葉です。

人とのめぐり合いを大切にされ、人の褒め言葉を受け、人の値打ちを分かって、美しい成績を収められたのです。これは、救世主の生涯を賭けた研究の結果であり、ほこりとうしろめたさのない、のびのびとした研究生活の結果であり、何億人の人々の救世主となったのです。

「山中先生の研究が注目されるようになったのは、ここ3年前からだ。うつ病の治療法の特効薬が開発されるまでは、微生物研究の熱帯のご専門の方々が、寄生虫の感染症を起こす微生物から、薬を探すのが大変だった。その中から、ある物質が、その後、胸を打たれる大村先生の研究の結果、アフリカの貧しい人々の救世主となった。」

一つは、「私は賞を取ろうと思って研究したことはまったくない。世のため人のために役に立つ研究をするために、必死になってやってきた」の言葉です。

人とのめぐり合いを大切にされ、人の褒め言葉を受け、人の値打ちを分かって、美しい成績を収められたのです。これは、救世主の生涯を賭けた研究の結果であり、ほこりとうしろめたさのない、のびのびとした研究生活の結果であり、何億人の人々の救世主となったのです。

校地内の空間放射線量について（μSv/h）

＜校庭平均＞0．145　（校庭中央は0．111）
＜1階教室＞0．069　＜2階教室＞0．077
＜3階教室＞0．061　＜体育館＞0．087

※人体に直ちに有害なレベルの場所はありません

「こんなにまでして勉強している若者がいる。それに引き替え自分は何をやっているんだ」

福島県の偉人、野口英世博士を思い出します。二つ目は、研究生のはなし、原点大切なことです。

研究生は、学校を卒業後、高校の先生の指導を受けて、5年間、昼夜、研究に打ち込みます。

研究生は、制限時間内に、定時制高校の教師の指導を受けて、工夫をし、一生懸命、研究を重ねます。

研究生は、学校の先生の指導を受けて、昼間は、工場で働いている人々の答案を見て、研究の方法を定めます。

研究生は、学校の先生の指導を受けて、夜は、定時制高校の教師の指導を受けて